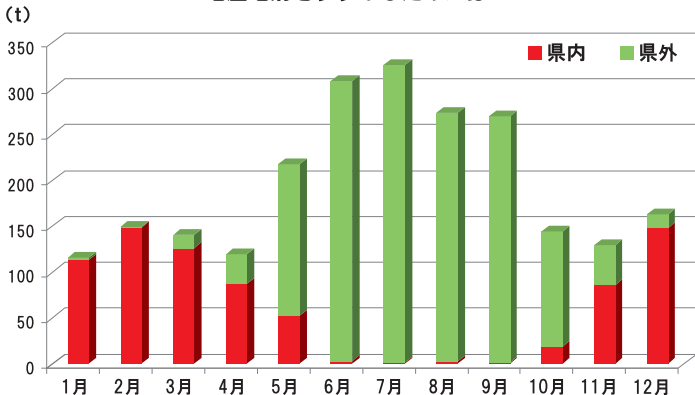


香川で消費されるレタスの産地と量

～地産地消をすすめるためには？～

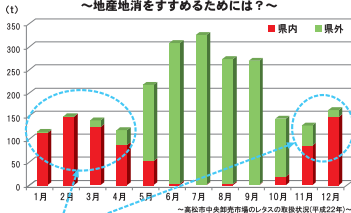


～高松市中央卸売市場のレタスの取扱状況(平成22年)～

【ねらい】

旬の野菜を使用することや地産地消の取り組みが省エネに繋がること、環境にやさしいことを理解したうえで、香川県が誇るブランド野菜「らりるれレタス」を取り上げ、旬産旬消や地産地消の取り組みへの理解をさらに深めます。

香川で消費されるレタスの産地と量
～地産地消をすすめるためには？～



※前の「資料24 香川産のレタスの月別出荷量」で香川のレタスの旬が冬であることを押さえてから、このグラフを見てみましょう！

【関連する各教科の学習内容】

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会	地域の人の生活や産業	地域の人の生活	我が国の国土の自然などの様子 我が国の産業や産業		【地理】 日本の産地 (香川県を含む) 地域の学習		【公民】
理科							
技術・家庭(道徳)							
家庭							
技術・家庭(家庭)							
			日本の食料と環境の基礎 環境に配慮した食料の工夫		食料の生産環境と生産条件 食料の流通に関する基礎的知識・技能 食料の消費と地域の食文化 家庭生活と環境		

【資料解説】

このグラフは、平成22年の高松市中央卸売市場における月別・産地別のレタスの取扱数量のデータをもとに、産地を県内と県外で色分けして表したものです。

このグラフを見ると、香川県でのレタス生産ができない5月～10月にかけて、県外から多くのレタスが入荷していることが分かります。その内訳ですが、夏秋レタスの中心である長野県や群馬県からの入荷がそのほとんどを占めており、出荷同様入荷にも多くの輸送エネルギーがかかっていることが予測されます。一方で、冬場(12月～3月)のレタスは、県内産がほとんどであることも分かります。つまり、香川県の人は、夏場は遠い県外のレタスを、冬場は地元のレタスを食べていることが読み取れます。

また、グラフを別の視点で見ると、各月の全体の取扱量について、1月の取扱量は最も多い7月の取扱量の約1/3程度となっています。グラフの各月の取扱量が、ほぼ消費量の推移によるものと考えれば、香川のレタスの旬である冬の消費量は、夏の消費量の1/3しかないということが読み取れます。

レタスというと、サラダのイメージが強いですが、夏場たくさん食べ、冬はあまり食べない傾向にあります。前の「資料24 香川産のレタスの月別出荷量」で香川のレタスの旬は冬であることを押さえたうえで、このグラフを読み取ることで、夏よりもむしろ冬にレタスを食べることが地産地消につながることを意識させることができます。

出典：平成22年高松市中央卸売市場における県産野菜の品目別・月別取扱数量